

## 第13回日本アグーナリー

We Can! ふかめよう友情(ゆうじょう)!ひろげよう絆(きずな)!

日本アグーナリーは、キャンプを通じて、全ての参加者が障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支えあう社会の実現を目指すことを目的に4年に1回開催されています。

第13回は、令和6年8月8日から12日にかけて福島・国立磐梯青少年交流の家で開催され、千葉県連盟からは参加隊に48人、本部奉仕13人、チャレンジクルー6人、派遣団本部5人、合計71人が参加しました。

### 第13回日本アグーナリーに参加して

なぎさ地区 市川第3団 カブスカウト隊 北島 弘翔

ぼくはばんだいの夕べでおかしを食べたり、わなげなどであそんだりするのがたのしかったです。他にもカレーを作って食べるのがたのしかったです。だけどもかまでたいたのでこげをあらうのが大変でした。そしてぼくはボーイスカウトのキャンプなのでかこくだと思いましたが部屋がきれいでした。3日目に佳子様が来られてたまたま近くを通ったので話しかけてみたら、返事をしていただけで、立ち止まってくれました。でもぼくはきんちょうしてうまく話せなかったけど、うれしかったです。



なぎさ地区 市川第3団 カブスカウト隊 杉田 光

場内プログラムで竹細工で自分のマイカップをつくったことが一番心に残っています。ほかに



は、缶バッチで自分なりの絵を書き、革細工も細くインクでぬったり、ドリームドームで夢を書いたり、水合戦でみんなとはしゃいだりするのが楽しかったです。

ほかに、場外プログラムでは、野口英世記念館で英世さんのすごさや細菌の大きさ、特徴、増える映像があって、ウイルスの働きなどもあってすごくわかりやすくて楽しかったです。

最後に、ぼくにはどんな障がいがあろうと一緒にあそんだり、おどったりしてすごく、すてきな人たちだとぼくは思います。

アグーナリー最高!!

私は13回目アグーナリーでいろいろなことをしました。

ばんだいカレーを作ろう！ ばんだいの自然と共に アグーナリーレンジャー ドリームドム  
を作ろう！ 水合戦！ 癒しの森カフェ 竹細工  
革細工 缶バッジ作り キャンプハンディトレイル  
天体観測をやりました。

また、場外プログラムでは、野口英世記念館に行きました。野口英世記念館には、野口英世さんが亡くなった当時、うでにつけていた時計、旅行バック、せい服がてんじされていたりしました。



野口英世さんが19年間すごした家もありました。

私は13回目アグーナリーでさまざまな事をけいけんして、いろいろと勉強になりました。

### アグーナリーでたのしかったこと

1ばんたのしかったのはたけざいくです。なぜかという、はじめてのこぎりをつかって、うれしかった。たけはかたくてなかなかきれなかったけど、でもうまくきれて、やすりでけずるとキレイになりました。2ばんめにたのしかったことは、水でっぼうです。おとなも子どももたくさんの人であそんだのがたのしかった。カフェでたべたポップコーンもおいしくて、たのしいことだらけの5日間でした。にもつがおもかったり、一人ではできないこともあったけど、みんながたすけてくれて、たのしくキャンプができました。



なぎさ地区 市川第3団 カブスカウト隊 堀江 権之介

アグーナリーで楽しかったことは、カコさまがきたときと、水がっせんでみんなとうちあえたことと、カレーを作ったことと、新聞にのったときと、ベコリングをもらったときと、リングを作ったときと、〇〇ちゃんをいっぱい作れたときと、ねるときねれなくて男3人で話してたときと、いろいろなプログラムをできたことです。かなしかったのが、ぼんだいのしぜんとともにカモフラージュができなかったことと、新聞ででたときがちょーちっちゃいときと、くみちょうじちようかいぎがながくてねられなかったときです。



### アグーナリーの思い出

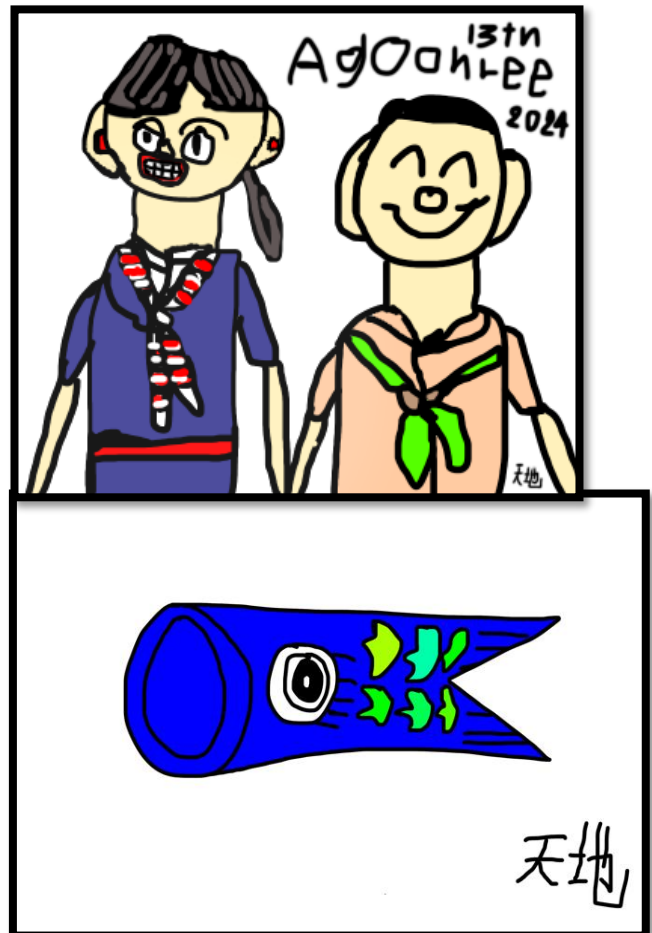
なぎさ地区 浦安第2団 ローバースカウト隊 長平 天地  
キャンプ中外でテントを建てました。プログラムで鯉のぼりに絵を書きました。つりもしました。

千葉県派遣隊で健太君や仲田隊長、目黒さん、岡島リーダーと楽しく過ごしました。

食事はカレーライスが一番おいしかったです。

千葉県の代表になって佳子内親王殿下に挨拶しました。

ボーイスカウト楽しいですと答えました。



## スカウトの支援を通して

うみかぜ地区 千葉第1団 ローバースカウト隊 村上 のの子

今回のアグーナリーに向け、目標をもって参加しました。障がいをもつスカウトのニーズを探りながら支援に当たること、スカウト同士の関わり合いをよく観察し、自らよく働きかけることでスカウトの充実した活動につなげることでした。

私は参加隊に付いて、障がいをもつスカウトの支援に当たる役目を担いました。まずは、どのようなことができ、どのようなことに困り感を覚えるのかを関わっていく中でよく観察することを心掛けました。自分のことは難なくこなすが、周囲の状況を把握することが難しいのだな、集合時間から逆算して物事をこなすことが難しいのだな、などと共に活動するなかで見えてくるようになりました。

スカウトを観察し、実態を把握するだけでは支援とは言えません。観察しながらも、より充実した活動となるための手助けをしなくてはなりません。ここで気をつけたのは、支援する場面と見守る場面の区別をすることでした。この判断はとても難しいものでした。本人にやらせるべき活動ですが、時間の都合でついサポートをしすぎてします。教えるだけでなく、どうしたらよいかスカウトに問いかけることで、自分で達成したんだという実感を持たせるようにしたかったのですが、その機会を奪ってしまったこともいくつかあったと思います。

昨日できたことでも、今日の気分次第では難しくなります。本当にできないことなのか、甘えているのかを見極め、ときに耐えて待つこともスカウトの成長のために大事なことなのだと学びました。

今回、アグーナリーを通して最も重要だと考えたことは、スカウトが活動を通して達成感を味わい、楽しいと感じることです。障がいの有無に関わらず、誰しものがスカウト活動で達成感を味わうためにはそのための支援や工夫が欠かせません。自分でできることは自分でやる。ひとりではむずかしいことをやり遂げるために仲間がいる。支援者の視点としては、褒めることでスカウトに達成感を与えられると思います。

その子に合わせて、些細なことでもできたことを褒め、自信につなげるのです。

インクルーシブなスカウト活動を実現するためのヒントと課題を得ることができ、充実した経験となりました。今後のスカウト活動および学業につなげ、障がいの有無に関わらず、すべてのスカウトのちかきとおきての実践に貢献したいと思います。



## 第13回日本アグーナリーを終えて

うみかぜ地区 千葉第6団 ローバースカウト隊 山田 佳樹

私はこの度、本部スタッフの活動サービスセンター員として2つのプログラムを担当しました。

場内プログラムでは、防災をスカウトに向けて説明する業務にあたりました。「災害が発生した際の備え」という内容をどのように効果的に伝えるかを考えながら進行することは難しさを伴いましたが、後輩スカウトの理解度に応じて説明をすることで、対応力の向上に繋げることができました。

場外プログラムでは、外国スカウト派遣隊の添乗員として、目的地の紹介や現地での通訳などの業務を担当しました。大会を通じて、多様なスカウトと上手に交流していくためには、1人ひとりのニーズを察知し、必要に応じて適切に「声かけ」を行うことが大切であると学びました。

また本大会には自身の弟も参加し、今後のスカウト活動における関わり方を学ぶ機会となりました。様々なスカウトとの交流を通して身につけた洞察力、どのような要望に対しても対応できる柔軟性を、これからの活動に繋げてまいります。



## 第13回アグーナリーを終えて

うみかぜ地区 千葉第1団 ベンチャー隊長 十枝初重

今回アグーナリーに初めて参加しました。まず、ジャンボリーとどう違うのかという点では、舎営と野営があり、個人の状況に合わせて選択してグループ活動ができていました。

カブスカウトは5日間の舎営生活を通して、時間を守りながらプログラムを思いっきり楽しんでいて、この年代での5日間の集団生活はとても貴重だと思いました。また、ボーイスカウトは舎営と野営に分かれて生活していてプログラムを楽しめる余裕を感じました。

ベンチャースカウトはチャレンジクルーとして参加していて、いろいろな活動の支援をしていました。今回自隊のベンチャースカウトの参加はありませんでしたが、次回は是非体験してほしいと感じました。私は県連派遣団として参加する中で、アグーナリーの体験を自団に伝えたいと思いま

す。

テーマは「We Can! ふかめよう友情、ひろげよう絆」です。日本アグーナリーは、キャンプを通じて、全ての参加者が障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合えあう社会の実現を目指すことを目的とする。私はアグーナリーを通して、目的を十分に達成できました。

台風が迫る中での運営は大変だと思いますが、さすが安全面の配慮が素晴らしかったです。一つ希望を言うとしたら食事の栄養バランスがとれていたらもっと良かったと思います。アグーナリーの運営、協力、参加した皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。次のアグーナリーでまた会えたらうれしいです。ありがとうございました。

うみかぜ地区 市原第6団 カブスカウト隊副長 松沢 由美子

「一緒に行きましょうよ」の言葉に、自分にも参加することができるのだと気付いたのは初夏になっていたころでした。ワクワクドキドキしながら準備を進め、あっという間に8月7日を迎えました。初日の午後は大雨が降りテントが水没するというハプニングがありましたが、翌日の参加者の皆さんの集合時には良いお天気となり一安心。

さて、私は活動サービスセンターに配属となり『君は名カメラマン』のブースの担当となりました。そこは参加者の皆さんが会場で撮影した『これは!』という写真を持ってきてもらい背景に乗せて絵葉書を作成するという内容です。スカウトの目線の写真、指導者の撮ったスカウトの写真、風景の写真・・・他のブースや会場内に出ることのできなかつた私にもアグーナリーってこんなことをしているのねと教えてくれるような写真の数々でした。共通していることは、みんな楽しさや希望に満ち溢れてキラキラとしていたことです。アグーナリーの一瞬を移した絵葉書が記憶の一枚となりますように。訪れてくれた心身に障がいを持たれた方とバディの方との会話に多くのことを学ばせていただきました。そして、海外からの方との交流に、もっと英語が話せれば・・・と思うこともありましたが必要なのは言葉ではなく相手を思う心だと改めて実感することができたプログラムでした。

アグーナリーには本当に様々な方々が参加しています。海外からの参加、日本中から集う多くの方。それはジャンボリーとも共通していると思いますが、アグーナリーはもう一つ障がいのあつるなしに関係なく、言語も文化も関係なく思いやれる場であり、優しい空気が満ち溢れていました。素晴らしい大会に参加させてくださりありがとうございました。

## 地区の諸活動紹介

### 2024年度 うみかぜ地区ビーバーラリー2024

「みんなあつまれ おおきな わ」

千葉第6団 ビーバースカウト隊長 高橋 光浩

(ビーバーラリー2024実行委員会 実行委員長)

令和6年度うみかぜ地区ビーバーラリーが、令和6年9月29日千葉ポートタワー横芝生広場にて開催されました。ビーバースカウト58名、一般参加者18名、兄弟参加22名、指導者50名、保護者60名、他9名、合計217名が集まり楽しいラリーになりました。

テーマを、ビーバーせかいりょこう「みんなあつまれ・おおきな わ」と題し、6つのブース

(エジプト、中国、アメリカ、フランス、イタリア、ブラジルにちなんだ)でゲームをしながらパスポートを持ち回る世界旅行を実施しました。

参加したスカウトからは、

「フラフープでピラミッドをつかまえろ」では、点数が取れたのが楽しかった・「水中のグラスにコインを入れろ」では、カブスカウトの先輩がいていねいに教えてくれて楽しかった。「月まで飛ばせ紙コップロケット」では、紙コップを飛ばすのが楽しかった。「パラリンピックで体験ポッチャ」では、ぶつけるのが楽しかった。「ピサの斜塔」では、段ボールを積み上げるのが楽しかった。「アマゾン川で大物を釣り上げろ」では、楽しかったが問題が難しかった。などの感想が寄せられました。

うみかぜ地区では、今年度は千葉エリヤと南総エリヤの2回のビーバーラリーを予定しています。近年各隊少人数での活動になる中、ビーバーラリーをとおり多くのスカウトと自然の中で皆となかよく元気に遊ぶことができとても良い時間を過ごせたと思っています。千葉市内の小学校の1, 2年生にはチラシを配り、当日多くの参加者が来てくれたことは、今後の活動の励みになりました。



本年は千葉県連盟結成75周年の記念事業として開催をいたしました、100周年に向け、うみかぜ地区ビーバー隊が大きな輪ができていくよう頑張ります

## 楽しかったデイキャンプ

うみかぜ地区 市原第7団ビーバースカウト隊長 小西 啓子

当隊の夏のデイキャンプは、8月11日に富津第1団野営場をお借りして行いました。7年振り団キャンプのキャンプファイアに参加するため15時開始です。野営場の展望台まで探検ハイキング、貝殻で工作、団夕食会、団キャンプファイアのプログラムです。

ビーバースカウトたちは、『秘密の地図』を持って、ワクワクしながら展望台に出発しました。「虫がこわかったけど、がんばって歩いた」、「セミの抜け殻をたくさん見つけた」。

そして、たどりついた展望台では「海が見えた！キラキラしていた」。そして、そこから見えた海岸の貝殻をシールやビーズなどで飾り付けました。これがデイキャンプの記念品です。団の仲間との夕食会は、豚丼とフルーツポンチです。「お



肉がすごくおいしかった。お肉だいすき」、「フルーツポンチのサイダーがブワッとなってすごかった」（フルーツポンチの仕上げにボールの中央に置いたサイダーにラムネを投入しました）

いよいよ夜になり、ちょっとドキドキのキャンプファイアです。「キャンプファイアで踊ったアブラハムの子が楽しかった」と言いながら「♪アブラハムには7人の子〜」と歌ってくれました。ビーバースカウトにとっては、初めてのキャンプファイアでしたが、燃え上がる炎からほた火になるまでのプログラムを体験し、何かを感じ取ってくれたと思います。





## キャンプで楽しかったこと

なぎさ地区 船橋第14団 カブスカウト隊 長津 駿斗

9月14日～16日千葉市少年自然の家に行きました。

まず1日目は、カレー作りがみんなで協力できたので、前回より時間はかかったけれど、その分おいしくできました。



夜の森は初めてで、少し不気味でした。いつ動物におそわれるかわからないのが、スリルがあってドキドキしました。空には1等星が見えて、とてもきれいでした。寝るときは、まど側だったので、いつイノシシがでてくるかヒヤヒヤしてなかなか寝れませんでした。電気をみんなにお願いしてつけてもらえて安心しました。初めてのねぶくろはポカポカで気持ちよかったです。

2日目は、森で遊びました。「ジャングルの中をぼうけんだ！」でポイントを回るのはつくれたけど、楽しかったです。まがたま作りはヤスリでけずるのが大変だったけど、作り終わった後の達成感がよかったです。キャンプファイアは、予想以上に燃え広がっておどろきました。熱かったです。



3日目は、クライミングウォールをしました。ルートを考えてがんばって登ったけど、じっさいに登るのがむずかしくて失敗しました。またリベンジしたいです。初めての2泊3日の舎営は、とてもつくれたけど良い思い出になりました。

## リバモア・四街道ボーイスカウト合同キャンプ

おおとね地区 四街道第2団 ボーイ隊長 吉岡 美奈子

標記の合同キャンプは今年で満38年、通算15回目で日本での開催となりました。実施したたくさんのプログラム中、富士登山の紹介をします。

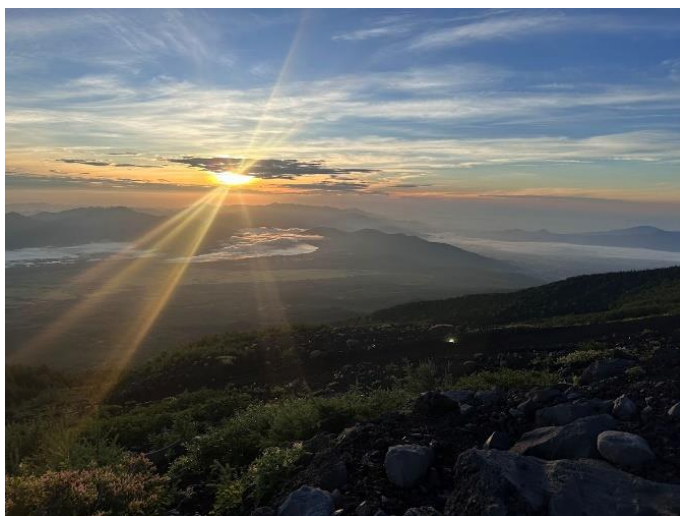
今年は山小屋の予約がまったく取れず、やむなく日帰り登山と

なりましたが、午前3時5合目出発で時間の余裕は十分でした。しかし登頂できるか不安ではありませんでした。また、自分との戦い、お互いを思い合いながら同じ目標に向かって前進していく姿は感動でした。会話できなくても休憩する度に快（ボーイスカウト／息子）はリバモアのスカウトとハイタッチを交わしていました。また辛い9合目では少し先にいる遼真くん（ボーイスカウト）が



快を何度も心配そうに見てくれていました。快に何度も「どうする？やめる？」と聞いても「やめない、絶対に行く。」と諦めませんでした。山頂ではリバモアのスカウトたちが出迎え自然とハイタッチ。きっと彼らは、かけがえのない何かを得たと確信しています。

また下山中では転倒して大量に出血している高齢男性をリバモアの隊長と協力して応急処置しました。



私たちは下山を急いでいたのですが、日米両国のリーダーは同じ「日々の善行」の気持ちを持って対処しましたし、それを日米両国のスカウトたちはしっかりと目に焼き付けていました。大人になった時、自然に誰かを助けられる人になれるに違いありません。

「リバモア隊との交流を終えて」

おおとね地区 四街道第2団 ボーイスカウト隊 吉岡 快

私は、今回のリバモア隊との交流を終えてたくさんのことを学びました。例えば、リバモア隊のスカウトが登山中に息切れすることなく登っていたので、どうして息があがらないのか聞いてみると、彼は日常的に空気トレーニングという酸素が少ない場所でも活動できるようなトレーニングをしているので慣れていると答えました。他には、いかだづくりを行った際には、彼らは自分以外の人を試している様々な結び方を見てから、いかだの強度を高めるためにはどのように結べばいいかを、大人に聞かなくとも自分たちで考え結ぶことができていました。しかし、私は、それを見ているだけで率先してリバモア隊のスカウトたちのように自ら考え行動することができませんでした。これを機に自ら考え、行動することを心がけていこうと思いました。



私は、英語が全く話せませんでした。登山中は休憩する度にリバモア隊の人々とハイタッチを交わすことを心がけていました。登頂に時間がかかりましたが、頂上では、リバモア隊のスカウトたちが待っていて、あちらからハイタッチをしてくれ登頂できた喜びや努力を称えあうことができました。言葉の壁に臆することなく積極的の交流を持つとしたことが互いの距離を縮めることにつながったと感じました。

最後に、今後はこの経験で得たことを日常の生活でも忘れることなくボーイスカウト活動に活かしていきたいと思います。